

○ 委員長報告

2月定例本会議で報告された農林水産委員長報告は、以下のとおりです。

令和4年2月定例会

農林水産委員長報告

報告いたします。

当委員会に付託されました議案の審査結果は、お手元に配付されております委員会審査報告書のとおりでありまして、いずれも原案のとおり可決決定されました。

以下、審査の過程において論議された主な事項について、その概要を申し上げます。

まず第1点は、ひめの凜の生産拡大についてであります。

このことについて一部の委員から、ひめの凜ブランド力強化事業の具体的な内容はどうかとただしたのであります。

これに対し理事者から、ひめの凜は、これまで個別に乾燥設備を持つ比較的経営規模の大きい農家を中心に栽培面積を拡大してきたが、生産の更なる拡大を図るには、中小規模の農家が、収穫した生粳をJAのカントリーエレベーターなどに直接持ち込むことができる体制を整備する必要がある。このため、生産者が多い東予地域を中心に、高品質なひめの凜を安定生産できるよう、老朽化したJAの乾燥設備や貯蔵設備など、品質に影響する設備の改修を支援することとしている。

また、将来の県外販売を見据え、新たに農業団体と連携して、県外で行われる愛媛フェア等でPR活動を展開し、知名度の向上に取り組んでいきたい旨の答弁がありました。

第2点は、アコヤガイのへい死対策と真珠産業の振興についてであります。

このことについて一部の委員から、へい死の原因ウイルスの特定を踏まえた来年度の取組みの方向性と、今後の真珠産業の振興についてただしたのであります。

これに対し理事者から、原因ウイルスが特定されたが、直ちにへい死を収束させることが可能になった訳ではなく、引き続き原因の全容解明に向けて取り組む必要がある。加えて来年度は、貝や海水のPCR検査を行うことで、ウイルスの拡散防止方策や、被害を軽減できる飼育方法を模索するほか、感染症に強い貝づくりにも引き続き取り組むこととしている。

また、真珠の販売については、稚貝の大量へい死に加え、新型コロナの再拡大により先行きが不透明であるため、県真珠販売促進協議会のECサイトを活用した国内販売のほか、台湾でパールフェアを開催するなど、官民一体で県産

真珠のPRや販売促進に取り組みたい旨の答弁がありました。

第3点は、えひめ森林公園の整備についてであります。

このことについて一部の委員から、えひめ森林公園の整備内容と期待される効果はどうかとただしたのであります。

これに対し理事者から、えひめ森林公園については、魅力向上による誘客促進を図るため、中四国最大級の木製遊具を有する「森と触れあう活動拠点」として、令和5年度までの3か年で再整備に取り組むこととしている。

具体的には、若者層をメインターゲットとして、森の中で遊ぶ、癒す、学ぶ、食べる・泊まるをコンセプトに、ツリーハウスやキャノピーウォークを始め、魅力発信の核となる新たな施設整備などとともに、PR動画の作成や森林体験イベントにも取り組み、「とべもり」とも連携することで、来園者数を5万人増の15万人に増やしたいと考えており、より多くの県民が森と触れ合い、様々な形で森づくりに参加してもらおうことを目指している旨の答弁がありました。

このほか、

- ・ため池の防災・減災対策
- ・南予家畜保健衛生所の整備
- ・原油価格高騰の農林水産業への影響
- ・本県水産物の輸出拡大
- ・みどりの食料システム戦略推進事業

などについても、論議があったことを付言いたします。

以上で報告を終わります。